



ともに生き育ち合うことをめざして：
ダウン症1年生Aちゃんとの歩み

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-07-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 矢口, 少子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00008057

ともに生き育ち合うことをめざして —ダウン症1年生Aちゃんとの歩み—

Growing Up with a Child with Down Syndrome

矢口 少子 (Mareko Yaguchi)*

障害のある子どもとともに学ぶことが障害のない子が育つ上でも必要なのではないかという思いと、学校における特殊学級の在り方がノーマライゼーションそしてインクルージョンの実現を左右するのではないかという問題意識に立ち現場に入った。その数カ月の実践のささやかな記録である。実際には特殊学級を担当する教師が、どうその職場で自分を位置づけるかという問題に向き合うことになった。またここでは十分ふれることはできなかったが、皆とかかわることが苦手であるというその理由について、その子なりのプライドが少なからずからんでいることを知ることができ、援助の糸口をつかむことができた。またAとのかかわりを通して教育の原点と思えるいくつかが見えてきたように思う。

(キーワード：教育 共育 ダウン症 特殊学級)

1. はじめに

27年ほど教員をしてきて障害児と教室でかかわる体験はなかった。

子ども達の感受性が薄っぺらになり、画一性の中に身を置くことに妙な安心感を抱いたり、違いを許容できなかつたりする傾向が強まっていることに危惧をおぼえ、「障害児も健常児もまじりあって育つこと」の意味を問い直したいと考え、障害児教育の道に入った。というわけで関心は当初から健常児も障害児も「ともに育ち合う」ために、学校における障害児学級がどう位置づいていけるのかというところにあった。

1年間専攻科で学ぶチャンスを得、初めて受け持つことになったのがダウン症児Aちゃんである。今年入学したAちゃんとともに私自身も障害児教育入門1年生となった。

2. Aちゃんについて

①障害名：ダウン症、知的障害（3～4歳程度）心臓に穴が空いていたが自然治癒

②特徴：

・言葉は不明瞭ながら、気に入った人との会話は豊かにできる。

・うまくできないことも多いが「自分でやる！」という意欲はある。

・食事、着脱、身辺処理などはきちんとしている。

・ままごとやごっこ遊びが好きで、しぐさもなかなか表現力がある。

・歌や踊りには興味をもち、自分なりに楽しんで進めることができる。

・数や言葉の類の学習にはあまり興味を示さない。「おべんきょう」は乗り気でない。名前を練習しているが文字と音がなかなか合致しない。数も3ぐらいまではわかるが、あやしい。数唱も10まで練習しているがなかなか定着しない。

・好きなこと興味を持ったことには長時間集中

* 別海町立西春別小学校

北海道教育大学旭川校特殊教育特別専攻科18期

したり意欲的になるが、反面きりかえがきかない。

・新しい体験、場に対しての抵抗感が強い。一人で遊ぶのが好きで他を排除したがる傾向があったが最近少し変わってきた。

③家族：会社員の父（PTA副会長）、専業主婦の母、4年生の姉、家庭でのAへのかかわりはよいほうである。学校にも協力的である。

④保育歴：地域の保育所で健常児とともに3年間通園

3. 地域と学校の概要

人口千人に満たない周辺を牧草地に囲まれた小規模な市街地である。森永乳業工場がある。また、矢白別演習場の近接地で日常的に砲弾の音が聞こえる。昭和42年頃から廃校による周辺の子供達を受け入れてきたが現在全校児童84名で、さらに離農などでの人口減、少子化の影響を受け減少の一途をたどっている。

酪農業が主幹産業で静かな土地柄の中、子ども達も穏やかで優しい。地域の保育所に通ったこともあり、Aちゃんに対する地域の人々やとりわけ同級生、そして全校的にまなざしが温かいと感じている。（資料「ひまわりニュース」参照）

4. 障害児学級が全校的な育ち合いの中に位置づくことをめざして～その紆余曲折

（1）親学級とともに～学級はある、でも一人では育ちにくい。親の希望も盾にして。

1）国語、算数以外は親学級でやらせて！～でも壁はA自身の中に…

少々強引な切り込みに親学級担任も学校もおかれて希望は全面的に受け入れられたのに、当初はほとんどAちゃんのほうが行きたがらず「こんなはずじゃあなかった。」とがっくり、ほとんど給食だけ親学級へという日が続いた。

6月運動会練習でみんなと移動するとき、テンポが合わずあせって抱きかかえて走ったわたしにしがみつきながら「だからやなの。」と

つぶやいたAの一言に、はっとさせられた。みんなと一緒にやるのが苦手、それにはAなりの不安やプライドがあったということによりやく気づいた。

それからはAの気持ちが向いたときに参加させてもらうことにした。ただ特に全校的な取り組みのときは、気持ちがそちらへ巧い具合に向くように万難を排し、参加できるように仕向けた。どうしても向かないときは無理強いをさけたというほうが正確である。まわりがそんなAを温かく受け入れてくれたこと、そして運動会でいえば「よさこい」、教科で言えば音楽などAの好きな分野を手がかりに参加する楽しさを味わう中で、少しずつ参加する機会が増えていった。（ひまわりニュース9,10）そしてプール学習で「うけた！」（ひまわりニュース19）体験がその後自分からみんなと学ぶ場へ向かうことにつながった。現在では音楽、体育、図工はほとんど参加し、自ら準備して向かうこともできるようになってきている。

「好きなこと」が気持ちを支え、みんなの中で「できた！」ことが勇気百倍になって元気をつけ、踏み出す大きな一歩になることを実感した。（ひまわりニュース24,25,27）

2）図工は矢口先生がみんなの先生

親学級の担任にかなりの負担をかけることを心配して、なにか教科を受け持つことを申し出た。向こうにも遠慮があり、ようやく持たせてもらったのが図工であった。そのときは担任のS先生がAの面倒を見ることになるが、この時間はわたしにとってもリフレッシュの時間となり、Aにとっても「矢口」という教師を別の角度から見直す機会になったようだ。また当初のうちには他はAの都合で予定がくるってもこの時間だけはいやがおうでもみんなと共に学ぶ時間となった。そしてS先生にAについて理解を深めてもらういい機会になったと思う。また、図工という教科を通して親学級の子ども達ともいいかかわりをもつ場となった。これは親学級の子ども達とAとのかかわりを持続していいもの

にしていく大切な土台となって働いているように思える。

3) 親学級おたより「また、あした」の中に「ひまわりニュース」

Aの親との交流は毎日の連絡ノートと帰りのお迎えの機会です。十分と考え、「ひまわりニュース」には別の目標を持たせた。親学級の父母全体や職員へのアピールと子育て交流の場と位置づけ、共通理解を得ることを期待した。そしてまたAと家族、ともに育ち合う子ども達へのエールであり、私のささやかな記録でもある。

4) 親学級担任との協力関係

1)～3)と重なるが、親学級担任とのいい関係作りが不可欠である。教師はとにかく忙しい。力になれることにはなるべく参画するようにしている。時間割作りもその一つである。また学芸会では劇の指導をさせてもらったり、道具作りなども共同で仕事をした。Aとともに進んで行く子ども達なので学年全体にも心を配り様子の交流なども出来る限り進めている。しかしかわり過ぎて失敗することもある。担任の領域を越えないような配慮が必要である。

(2) 全校活動の中で

1) おにいちゃん、おねえちゃん、わたしのしごとは？

本校は日常の清掃活動も1年から6年の縦割り活動として行っている。

大きいお兄ちゃん、お姉ちゃんへのあこがれからか、大人よりも圧迫感を感じさせなかったのか、比較的スムーズに活動へ入って行くことができた。お世話をお願いする中で6年生の役割も学んでもらった。Aについてお世話をし慕われることを通してその子ども達にも心遣いが生まれ、いい表情でお世話をしていた。6年生が修学旅行で留守のときは5年生がちゃんと引き継いで、遅れていったAのためにすでに終えていたにもかかわらず、仕事を作って参加させる気配りをしていた。みんなで労働することは大切な体験である。自信にもつながる。

しかし最近、さぼることも覚えた。そうしたことはあいまいにせず「いやなことも力を合わせてやらなければならない。」と、抱えてでも連れて行って参加させるようにしている。自分が悪いということはわかるようだ。他の場合でもそうだが「悪いときは叱って欲しい。」ということは子どもの共通した願いであると感じると同時に、昨今叱らない大人が増えている風潮の中で、「大人がきちんと叱ることの意味」を改めて感じさせられている。Aの場合もわがままを言って「それは通らない。」と叱られると、泣くがその気持ちがおさまると自ら「ごめんね。」と言うことができる。そして「わかったらいいよ。」と許すととてもいい顔をすることができる。「わがまま」であるかどうかの判断は慎重にしなければならないが、きちんと叱ることでお互いの絆も深まるように思う。そのことがこうした子ども同士の関係の中でも確立できることが目標と考えている。

2) 全校行事にはできるだけきっちり参加させる

全校での取り組みは日常的にあるわけではなく、貴重な取り組みとなる。全校のみんなにAを理解してもらおうチャンスでもあるし、Aにとってもとっておきの学びの場であると思うからである。

1学期にあった全校遠足では未経験の不安から初めからおんぶと決め込んできた。初めはなんとか歩かせようと頑張ったが、みんなが見えなくなってしまうと行き先がわからなくなるという私自身の事情から、負けておんぶして出発した。出会う父母の車も、監察のために出た職員の手も何度も車に乗ることを進めてくれたが、「遠足は歩くものだ。」をわからせようと2人分の荷物とAを背に半分意地になって5キロを歩いた。途中1キロほど自分で歩かせるのに成功したり、目的地到着100メートル手前からみんなの前で花を持たせたいとなんとか歩かせ、格好がついた。みんなからかなり遅れたけれども車に乗らずに到着した。帰りはバスだったこ

ともあり楽しい遠足で終わることができた。

2学期はマラソン、このときも途中雨が降ったりしたが、乗車をことわって2キロメートルをなんとか完走させた。沿道の父母、そして気長に待っていてくれた全校のみんなに支えられながら。(ひまわりニュース22, 23)

こうした経験がすこしでもAの内なる自信となって生きること、そして支えられていることを実感し安心して自分を伸ばしていくことにつなげてほしいと願ってのことである。障害をもつとはいえ本人がその気にならなければ本当には解決しないのではないかと4月当初からのAとのかかわりを通して考えるようになった。そして実際1学期の運動会に比べ、2学期の学芸会ではとても成長ぶりを確認した。もっとも本人が好む傾向の活動であったこともあるが、私の手を離れてみんなの中で立ち立って活動できたことは前進と考えている。(ひまわりニュース24)

3) たんぼ学級との交流学习

2年生T君も1人学級なので「たまには一緒にやりましょう。」のお誘いをいただいて、それから週1時間または隔週で2時間、時間割にのせて交流学习を進めて来た。(ひまわりニュース6) 行事で中断しているが、仲良しになり、お互いいい刺激を受けながら交流している。内容はホットケーキ作り等の実習、数や言葉などそれぞれの実態に応じて同一教材異内容または同内容と様子を見ながら進めている。2年生のTにとって1年生のAの存在は「おにいちゃん」になるきっかけとなったようである。全校の授業研究で教室を空けなければならないときなど、粘土造形等であれば2人で充分活動が可能までになっている。

親学級の中ではややもすると自分の中にもこもってしまうことが多いAも不思議とTにはうちとけて自分を出すことが多い。テンポが合っているように見える。こうした関係も必要に思える。

また障害児学級を持って日が浅い私にとっ

て、数年の経験をもつ担任のN先生に教えられることも多い。

4) 遊びにおいて！～ひまわり学級の解放

子ども達は1年生のみならず、いろいろな他の学級にない教具があるひまわり教室に興味津々。「あそんでもいい?」「いいよ!」と、いうことで休み時間はせまい教室いっぱいになって大盛況になることが多い。初めのうちは「いやー。」「だめー。」とさげんでいたが、「ここはAのものじゃなくみんなのものでもあるんだよ。」と意に介さないでいるといつのまにか逃げ出したりしていた。そのうちくる子ども達もAを上手に取り込んだりしているうちに、最近はいつのまにか受け入れて一緒に遊べる日も出てきた。片付けから漏れたものの後始末に追われたりはするが、それなりの効果が出て来ている。

5) できることはできるだけやる～教師自身がきちんと位置づく

教室の外での学びを重視するということは、いろいろな人の手を借りて育てるということである。負担をかけるだけではこころよく受け止めてくれるはずはない。それは親学級担任とのかかわりでも述べたが、でき得る限り、教室外の仕事も前向きに進めることが大切と考えている。

担当する委員会(「いのちいっぱい委員会」～飼育委員会)と抱き合わせ、また花壇を立派にしたいと願っていた公務補さんと協力しながら学校の周りの花壇整備を進めた。また校務分掌は研修に属しているが、充分果たしているとはいえないが全校的な視野に立って仕事を進めるように心掛けている。

障害児学級を担当する教師自身が全校の中できちんと自分を位置づけ仕事をし発言をすることが、(それは私的な楽しみの共有も含む私人としての触れ合いも入れて)の障害児学級を全校の中に位置づけ、育ち合いの歯車として機能させる土台であると心している。

5. まとめにかえて

学級はあっても担任との1対1では学びに限界がある、学びはさまざまなかわりのもとでこそ豊かに成立する、それは障害者の側からだけでなくかわりあう人々すべてに共有できるものだ、という思い。またAの将来そしてインクルージョンの具体化のために障害児学級を抱える学校の果たす役割を問い直す。そうした観点から進んできた数カ月であったが、周囲の協力を支えられてA自身が「変わってきたね。」「表情が豊かになったね。」と評価されるように成長してきたことがまず嬉しい。

また、Aとのかかわりを通して親学級をはじめ、本校の子ども達の人としての優しさを確かめ合えたことも喜びであった。

今後はAの発達課題などをもっと明らかにし、どうかかわってもらいたいのか、またどうかかわりが必要でそれをどう展開していくのがよいのか、Aをとりまく子ども達の成長ともかかわらせながら、全校的な視野での共通理解を図りながら進めていくことが課題と考えている。

今レポートではAの個別の学習の様子、課題については詳しく述べる視点を省いたが、Aの将来も見通したインクルージョンの実現のために、障害児自身とそれをとりまく人を含めた環境としてそれぞれ何が課題なのか、そしてそれをクリアする具体的な手立てはどうあればいいのかをAと共に歩む中で明確にしたいと思う。

また、前述のことともかかわって障害児学級を担当する教師がどう校内で自分を位置づけ仕事をするかということと共に、地域とのかかわりを積極的に進めることも今後買い物学習などの学習を進めて行くうえでも、また地域で暮らすAの成長のためにも必要と考えている。

資料 ひまわりニュース

いっしょにやろう！ ひまわりニュースNo. 3

ひまわり学級の前を1年生のみんなが体育館にむかいます。開いているドアからみんなが口々に「Aちゃん、たいいくだよ。いっしょにやろう！」と声をかけてくれます。でもなかなかひまわりでやっていることから離れられませんが「Aちゃん、みんなとやろう。」ときそうのですが「いいの。」と言っていました。給食のお当番も大好きなのですがつついとおくれて、向かったときは全部配り終わったり…廊下からそろそろとすまなそうにのぞいています。そんなときでも教室から「Aちゃん、おいで。Aちゃんのおいしいうどんもあるよ。」と声がかかります。「Aちゃん、お当番できなかったから『ごめんね』しよう。」と言うと「ごめんね。」と何度も言いながら、それでもにこにこ席についていました。

そんなみんなのあったかい声かけのおかげで、今週は朝の会、帰りの会、体育、図工などずいぶんみんなと一緒に時間をすごしました。

みんなのなかで ひまわりニュースNo. 4

はじめはみんなとすることより、ひまわり学級で一人で何かをしているほうがよかったAちゃんも今週はまたたくさんみんなと活動しました。26日は朝の会、こくご、たいいく、せいかつとたくさん参加して紙芝居をみんなと見たり、なわとびやかけっこもいっしょけんめいこなしました。1ねんせいをむかえる会の自己紹介の練習やそのあとのしりとり遊びにも参加しました。そして1ねんせいをむかえる会にもしっかり参加して出し物を見たりゲームも楽しみました。自己紹介もちゃんとしました。体育に行く前にはようこちゃんの「この粘土このまま箱に入れておいて体育行こう、ね。」に「うん。」とうなづいて、1ねんせいをむかえる会

にはみんなと一緒に6年生のお姉さんと手をつないでもらってにこにこしながら体育館に向かっていました。

たんぼぼ学級と ひまわりニュースNo. 6

今週から週1時間たんぼぼ学級とも合同学習が始まりました。

お互いに一人ずつなので、個別にかかわる時間の1時間でも共に学ぶ機会があったほうがいいのではないかというN先生との話し合いでそうした場をもつことになりました。

今週はたんぼぼ学級におじゃましました。Aちゃんの大好きな三輪車もある教室なので何度かおじゃまさせてもらっていました。そのせいかAちゃんの足取りもとんとんと進み入り口でもしっか「失礼します、おじゃまします。」と挨拶もバッチリ！ひも通しやボーリングなど一緒に体験しました。2年生のTちゃんにとても親切にされ、N先生には「あら、この子たいしたもんだね。手つきがいいね。こういうこともできるんだね。」と、たくさんおほめの言葉をいただいていい時間をすごさせていただきました。あんまり居ごちがよく離れがたく…大好きな給食に遅れてしまうほどでした。

かかわりあって育ち合う ひまわりニュースNo. 7

朝の自由な時間に自由にしていることから、時折はなれられなくなるときがあります。グラウンドで、または体育館で…。グラウンドでは6年生のお兄さんが3人、体育館では5年生のお兄さんたちがこのときは5人がかりで、一生懸命教室にもどるように説得しているようでした。また休み時間には一緒に遊んでくれていた4年生の人達がやはり一緒にもどろうと説得してくれたことも何度かありました。また廊下で一人で歩いていると必ず「あら、Aちゃん。」と、声がかかります。1年生の教室だけでなく全校にこうした空気があることが、とても心強いと思います。今週から全校縦割り班で掃除が始まりました。6年生の真美さんの指導でと

ても上手に机ふきができるようになりました。真美さんも心をくぐいてやさしく声をかけながら指導していました。

いろいろな場面のこうしたかかわりの中で、大事な育ち合いをしているように思います。

がんばってるよ ひまわりニュースNo. 9

運動会もあと一週間にせまりました。校内のうごきもそれにあわせてますます活気がでてきました。みんなでやるのがあまりすきでなかったAちゃんもだんだんにその動きにまざるようになってきました。朝の体育館でのよさこいの練習にも自分からでかけるようになりました。音楽に合わせての動きもなかなか決まってきました。気に入った鳴子も大好きな沼崎お兄ちゃんが、「Aちゃん、しまうよ。」と言うと、「はい。」と気持ちよく返すことができます。教室でもお掃除の前のいすを机に上げるのを上げ忘れたお友達の分も進んで上げてくれます。縦割り班でも今週は沼崎お兄ちゃんの指導を受けながら黒板ふき、モップがけ、机ふきをがんばっていました。給食当番でもおかたづけの台車をお友達と気持ちを合わせて運んでいました。運動会を前にいろいろ頑張る様子も増えてきたように思います。

みんなの輪の中で ひまわりニュースNo. 10

いよいよ明日は運動会です。この2週間お天気にも恵まれて順調に練習も進みました。Aちゃんもだんだんに全体の練習にも参加するようになって明日を迎えることができます。低学年紅白リレーは白組のスターターです。バトンをしっかりとってけんめいに走っています。みんなもそれを認めて少々遅れても文句ひとつ言いません。大玉転がしもみちるちゃんとペアで白のスターターです。みちるちゃんと気持ちを合わせてにこにこして運んでいました。競技の入退場でもとなりのAちゃんをみんなで気遣ってくれるのがうれしいです。こんな心遣いはどこで育てたのかなあと感心させられます。

Aちゃんが一番好きな競技は「よさこい」です。音楽にのって楽しんで踊っています。明日はおもいきりいい日になってほしいですね。

いい運動会でした ひまわりニュース No. 11

よさこいでなるこをならしておどったのがおもしろかったです。
やぐちせんせいにオンブしてもらいましたりれーもおおだまもがんばりました。
れもんしーしーをのみました。ぶどうあいすもたべました。
おかずとおにぎりとなっとうまきをたべました。

6月14日口頭

初めの70m徒競走はちょっと調子がでなかったけど、あとの競技は全部こなしました。

特に紅白リレーと大玉転がしのスターターとしてしっかり走って責任をはたしました。

移動(入退場)はみんなの歩幅と合わないのを感じてしまうのか、オンブとだっこになってしまいました。昼の放送でビデオを見て「やっちゃん、オンブ・・・」とてれて笑っていました。「来年はオンブなしね。」と言うと「うん。」とうなずいていました。

いっしょにあそぼ、いいよ！ ひまわりニュースNo. 15

『みんなといっしょにまざりあってそだってほしい』…これは私自身のねがいでもあります。それ以上にご両親のねがいでもあるのだらうと思います。この1学期とってもたくさんかわってもらいました。校庭などで一人ぼつんとにいるAちゃんを見つけては「はいろ」と声をかけ一生懸命説得してくれていた上級生の人達、体育館や音楽室にむかうとちゅう、「Aちゃん、たいいくだよ、まってるからね、きてね。」と必ず声をかけてつづけてくれた1年生のみんな、「いっしょにかえろ！」と連れ立って手を

とって帰って行ったみさとちゃん、ののかわあやちゃん、みちるちゃんら歩き組みの人達、会うと必ず声をかけてくれる先生方…。そしてこのごろは休み時間や放課後のひととき、「いっしょにあそぼ」と声をかけてくれるお友達に「いいよ」と言って、とてもいい顔をして遊んでいるAちゃんの様子が見受けられます。まわりのあったかい気持ちにつつまれて安心しているようです。これからもよろしく。

ひとりでうけた！ ひまわりニュースNo. 19

今週の最後の水泳学習ではぐ〜んと進歩した人が何人かいました。たくまくんは顔に水をやっつけていたのに一人でけのびして浮いていました。そのうち足もバタバタさせて進もうとしていました。水に浮くのがおもしろくなって何度も何度もけのびをしてばた足に挑戦していました。とってもいい顔していました。そのそばでもう一人「うけたよ！これみてえ」と張り切っている人がいました。Aちゃんです。いつもはほとんどわたしにつかまっているのですが、この日はどンドン一人で動き回っていました。そしてビーチ版をもって「せーのおでっ！」と自分で掛け声かけて足をバタバタさせて確かに数秒浮いていました。こちらも自分で浮けたのがうれしくて何度も何度も挑戦していました。何か自分でつかむ、一つできるようになるということはとても力になるようです。この後Aちゃんは図工は勿論ですが、いつもは消極的な体育、音楽、生活のお勉強もほとんどみんなと一緒に取り組みました。今日の音楽は自分からピアノと教科書を準備して1番に音楽室に向かいました。

むかえにきたよ、がんばれ！ ひまわりニュースNo. 22

マラソン大会に向けて遊友タイムなどで全校的な練習を重ねてきました。Aちゃんにとってもマラソン大会は初めての体験です。初めてのことに慎重になることが多いのですがマラソ

ンの練習も1回目はおんぶでみんなと1周と始まりました。しかし2回目は半分おんぶ半分手を引かれて1周、次は自力で1周と順調に進んで来ました。30日の1～3年体育で初めてコースにでることになりました。教室を出るのに時間がかかりましたが、ちょうどスタートに間に合いました。初めはおんぶで出発しましたが校庭を出るときにはやる気になって自分で走りだしました。ときどき休みながらですが折り返し点までなんとか行きました。途中何度も「Aちゃん、がんばって。」と、声をかけられ励まされました。帰りはさすがに誰もいなくなりました。「ま、コースを通せるだけでもいいか」と、覚悟を決めての帰り道。みんなはどうしているかなあと橋まで来たとき、「Aちゃん」と走ってくる子ども達が・・・2年生も3年生もいます。「むかえにきたよー、がんばってー」と、よって来ました。「むかえにきてくれてありがとう。」と2回ぐらいつぶやいていました。なんとか校門まで来たら、S先生もストップウォッチを手を掛けてくれました。みんな待っていてくれました。元気が復活して走ってゴールすることができました。

て、手、そして声援ありがとう！ ひまわりニュースNo. 23

10月2日、マラソン大会当日をむかえました。2時間目に2年生の生活科「こどもひろば」のレストランでごちそうになった「ラーメン」がすごく気に入って、とうとうそれをもって外に出ることになりましたが、「さあスタートだよ。」という時にはきっちりけじめをつけて自分でおくことができました。そしてそのラーメンパワーのおかげで見事みんなといっしょにスタートをきりました。道路に出ると段々差が出て来ましたが、折り返してくる子ども達がつぎつぎに声をかけてくれます。そして手を差し出してAちゃんの手と合わせて激励してくれました。また監察で立っておられたお母さん方も手を出して応援してくれました。今度はそれにパワーを

いただいて元気に進むことができました。折り返し点ではK先生が手を出していてくれました。課題はその後です。だんだんみんなは遠くなるし、おまけに雨がポツポツ…。しかし、急ぎょ応援団が結成されNおまわりさん、お母さん方、T先生、沿道にいる人達みんながかわりばんこに手を出して「ばーん。」と合わせるのが好きなAちゃんを励ましてくれました。T先生はゴール近くでくじけそうになると、お尻までつきだして大サービスしてくれました。校門になんとかたどりつくと、みんなの声援が待っていました。高学年のみんなは雨が降って来たのにAちゃんがゴールするのを待っていてくれました。そしてゴールテープで待っていた校長先生の腕の中に飛び込んでいきました。みんなのおかげで練習の時より10分も縮めてみごと完走することができました。そして後日、とてもいい顔で記録証をいただきました。

学芸会おもしろかった！ ひまわりニュースNo. 24

ぴーぴーひよこ、おもしろかったよ。
パパイヤ、たっくとぶつかってすべってころだよ。
しゅんくんともぶつかって、いたかったよ
でもがんばっておどったよ。

運動会のとくにくらべると、すごーいすごーい成長ぶりを発揮した学芸会でした。私にしがみついて移動していました。選手宣誓も代読でした。それが開会の言葉をみんなとならんで声を出すことができました。劇のひよこも台詞つきでがんばりました。遊戯「パパイヤはいかが」もみんなと踊りました。全校合唱もいい顔をして声を出していました。ほとんど毎日いろいろな練習が入っていたのですが、それにもほとんど参加してきました。自分から体育館に向かうことも多かったです。一人でいることが好きでなかなかみんなの中に行きたがらなかった

1学期に比べるととても前進しました。雨の中みんなに励まされて走り通したマラソン大会の体験も力になったと思います。1年生を中心に西春別小、そして地域の皆さんの日々の温かい励ましや支えの中で安心して進んでこれたからだと思います。

わたしもまぜて ひまわりニュースNo. 25

全校縦割りの清掃活動が終わると、帰りの会や5時間目が始まるまでのほんの15分程ですが、子ども達にとっては楽しみな昼休みのひとときになります。ワークスペースの積み木がもともと大好きなAちゃんですが、そこでとてもいいできごとが今週3回ほど見られました。すでに掃除を終えて遊んでいた慶ちゃんに「けいちゃん、わたしもまぜて。」と声をかけたのです。聞こえない慶ちゃんに2回目も自分で言いました。慶ちゃんからは「いいよ。」と気持ちよく返事が返ってきました。おまけにAちゃんの頭ごと抱いてなぜなぜしてあげていました。それにもにこにこうれしそうにしていました。次の日も積み木のところで美里ちゃんや慶ちゃんたち3人ぐらいいました。その友だちに向かって「わたしもまぜて。」とまた声をかけることができました。次の日もまた自分から声をかけて遊びの輪に入ることができました。そして昨日「わたし、けいちゃんだいすき！ たっくんもすき！ しゅんくんもすき！」と、教えてくれました。この2つの出来事をS先生に思わずお話ししたら「すごい前進じゃあないですか。」と一緒に喜んでくれました。

みんなと?やったあ! ひまわりニュースNo. 27

きのう、ひまわりの朝の会の「よてい」を確認する場面で白板に「3、4 ずこう」といつものようにそこは赤のマジックで書くと(みんなで作る時間の内容は赤で書いている)、「ずこう、みんなと?」と言うので、「そうだよ。図工はみんなとでしょ。」と言うと「やったあ!」と

喜んでいました。初めのころと比べると考えられない反応に思わず「おう!」と心の中で言っていました。そして実際図工ではS先生に声をかけてもらいながら「せんのおさんぼ」を画面一杯に、たまに通りにかかる私にまでお話ししながら楽しそうに描いていました。「おうち」「おみせ」「おはな」「くるま」と今まで描かなかったものもたくさん描くことができました。今週の月曜日には音楽の研究授業でみんなとがんばっているところを全校の先生方にも見ていただきました。そこでもみんなといっしょに楽しめたこと、自分の出番でもちゃんと楽器を鳴らして「できた」ことが、とても自信になって嬉しいことだったのだと思います。

おはようございまーす まわりニュースNo. 29

11月のSちゃん目標は「お友達や先生に会ったら気持ちよくあいさつする」でした。Aちゃんの側からもまわりの人とのかかわりを育ててほしいという願いからです。とても早い時期にN先生が「朝、玄関で靴を入れていたら後ろから声がするので振り向いてみたら、Aちゃんがとてもはっきりと『おはようございまーす。』と言ってくれたんだよ。」と教えてくれました。その後まもなく、朝の会が始まる前、廊下で出会ったS先生にも自分から「おはようございまーす!」と言って私を喜ばせました。それから、廊下で仕事をしている梅原さんにも促されてではありますが、気持ちよくあいさつことができました。出会うと必ず声をかけてくださる校長先生や教頭先生、そしていろいろな学年の先生方、または職員室で声をかけられると挨拶を交わせるようになりました。お友達や学年の違う人達、そして町で出会う人達とも自分からあいさつができるようになっていくことがAちゃん目標でもあり、Aちゃんにかかわる私たちの目標でもあります。それはAちゃんに限らないことでもあるのでしょう。